

世界人形行脚記 (三)

——(世界教育大會より歸りて)——

フレールベル館社長 高 市 次 郎

ニューヨークの人形に就いてお話する前に、日本人形と西洋人形との差異、其の各々の特徴等に關し充分明確な觀念を持つて置いて頂くのが好都合かと思存しますので、左に先づ日本人形の製作工程を一通り申述べて見ませう。

先づ極めて簡単なアウトラインの原型により、鋸屑を糊で固めて抜き乾燥します。之を「生地」^{キダ}と申します。生地は色々の大さ、色々の形を勝手に抜いて「生地屋」で賣つて居ります。安ものを「ブラ」、上ものを「泣き」^{ナキ}と申します。

ブラは泣かぬ人形で、只脚がぶら／＼してゐるのでこの稱があり、泣きは腹を押へるミビーと泣くもので、生地の時から違つて居ります。

生地の抜いた時と乾燥した時とでは約二割の收縮をなし、然も收縮率が場所により異なりますので、細い部分は殆

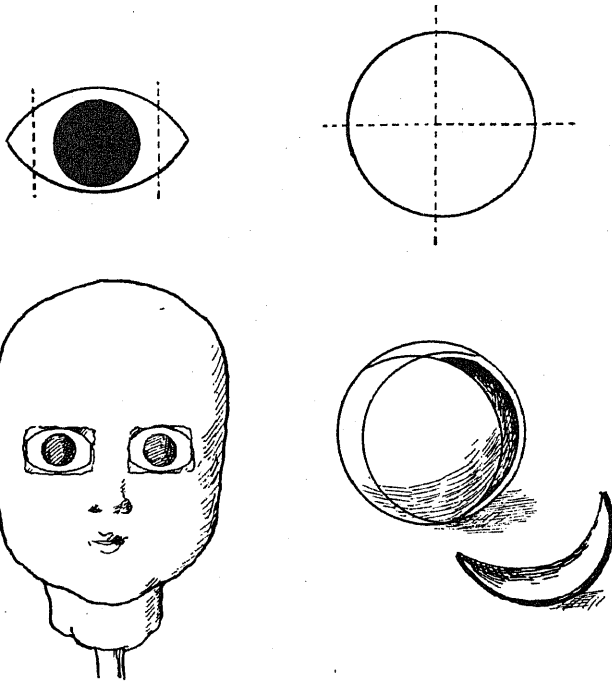
んど減茶／＼で、如何に原型が良くても生地には餘り效力を爲しません。眼の處はたゞ四角に凹んでゐる丈、口は殆んどなきなく、耳は絶対になく、鼻丈は少し盛り上つて居ります。因に日本人形には出来上りにも耳の無いのが普通で、所謂「泣き」の上物に附て居る丈です。耳は仕上げの時胡粉を置いて作るもので、生地には關係がないのであります。

以上は生地のお話ですが、さて次に人形屋の工程を申上げませう。先づ眼球です。眼玉は鉛を極量に加へた透明の軟質硝子—硝子の屑を壺で煮て多量に鉛を加へたものを適宜の大きさの球に吹き、それを縦に四つに取り、上下を切つた一片(插圖参照)の裏へ墨で描くのであります。「泣き」の上物には眸、光彩膜等を描きますが、普通は一面にたゞ黒く塗つた丈で、三厘乃至九厘位で出来きます。西洋人形の

眼球に上物一個壹圓五拾錢もかゝるのこは雲泥の相違で
す。かくして出来た眼玉は生地の凹みへ膠で嵌め込みま

工程を要します。地塗は荒生地をかくすのが目的で、ドロ
ドロの胡粉にドブツミ突込み、空気を含んでブツの出来ぬ

眼玉の製作方



様刷子で摩擦し再び突込み、藁束に突刺し乾かします。中途は乾いた地塗のものを左手に持ち、右手で胡粉を杓子にて掛け、再び藁束に刺し乾燥します。之で凡そ五厘位の厚さに胡粉がつき、平に奇麗になります。細い表情はすつかり潰れてしまひます。水拭は布に水を含ませて拂拭し、胡粉の塗面を平均にするのですが、之には大變技術を要します。

斯様にして塗り上つたものは眼も口もないづんべらほうのほうですから、先づ小刀で眼を切らねばなりません。凡その見當で眸を真中に切開しなければならぬのですから、なか／＼難しいのです。目縁は胡粉で拵へ一皮目、二皮目等に作り

す。
次に塗りです。塗りは地塗、中途、水拭上塗、四階段の

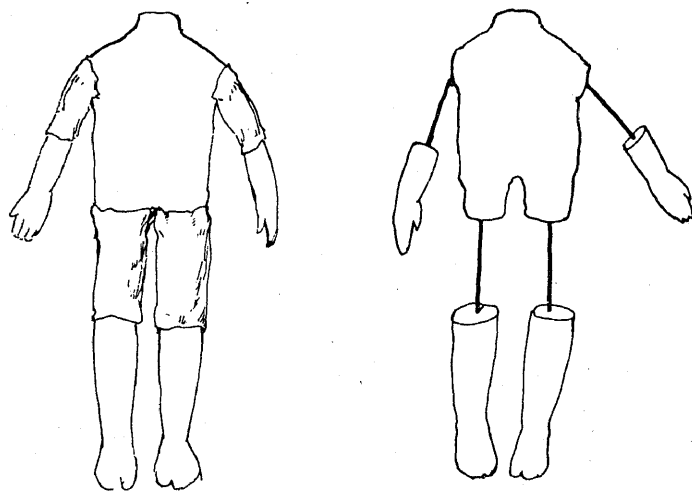
ます。此の眼の切り方は表情が大關係があり、職人の腕の
大いに關する所です。次に口を切り、唇の皺迄作ります。

鼻は大していぢりません。次に上塗です。紅からを入れて淡肉色にまいた胡粉をいたまらせて、上澄の極くこまかい所だけ取つて、刷子に少量付けて塗る、最も安い人形でも三回、多いのは七、八回から十回、京都の御所人形等は十五、六回も塗ります。それから紅粉を眼ぶちや頬に刷子で刷り込みます。西洋では頬を赤くするのですが、日本人形は重に眼ぶちを染めるのは一つの對照です。頭髮は本等は女子の毛髪を用ゐます。之を適當の長さに切り、適量を握つて膠に浸し、人形の頭顱に押し宛ててブツミ吹くミ四方に平均に散ります、實に甘いものです。そこで頭を押へて刈れば宜敷いので、そんな上等の人形でのも頭髮植え方は少しも異ひません。因に頭顱だけは胡粉に浸さず生地のままに残して置かれてゐるのであります。

胴、手足の地塗迄は頭と同じで、唯上塗が少しく簡單だといふに過ぎません。取附は上物は布で胴に貼り附け中の間隙に綿を入れます。並物は針金一本で釣り、お腰の紙を巻き附けただけです。但し手は針金ミ布ミを併用するが一般であります。背の高低は、單に一本の針金を延すか縮め

るかに在るので、至つて簡單なのです。私がニューヨークで見た日本人形は、何れも背が馬鹿に高いノッポ許りでした。

方付取の足手に胴



さて次に日本人形の長所ミ短所ミを批判して見ますな

らば、短所を以て次の諸項を擧げる事が出来ます。

一、原型による表情の出せない事——之は生地の收縮ミ
胡粉を厚く掛けるのミの二重の原因に由る事で、日本
人形の製作上の最大の缺點であります。西洋にはキャ



クター・ドルミ申しまして、赤坊、姉さん顔、笑顔なき
色々あり、原型に依つて之を表はし得るのですが、日
本人形は所謂人形顔にて、皆一様に無表情に近い顔で、

キャクターが出てゐない、此の缺點は原型の不適當
に負ふ所が多いのでして、大量生産には最も不向きで
あります。

二、汚れを洗へない事——胡粉ですから、一寸汚れても
餘程注意しないミ剥けます、況んや洗つたり、
擦つたりは禁物です。

三、眼球——餘りに簡單で實物ミの懸隔が餘
りに大きく、且つ動かしたり、眠らせたりす
る事が出来ません。

四、手脚——すぐに取れて、毀れ易い事。

五、頭髮——附け方が悪いので、易く捲れて
しまひます。

次に日本人形の特徴、長所を擧げますならば——

一、生地軽く割合に、丈夫なこぎ。

二、顔の表情は一に職人の腕に在るので、一
つ二つ異つて居ります。即ち人形師の技術を

發揮する藝術品としては、世界中日本人形に及ぶもの
は無いので、郷土的に、また時代的にその特徴を持つ
た傑作が澤山残されてゐます。此の意味に於て日本人

形の蒐集は最も興味あり、且つ價值あるものであります。

日本人形のお話は此位で措き、次に西洋人形に移ります。之は材料、製法とも種々雜多で一概に申す事は出来ま



番宜敷いのですが、重くて破れる缺點があります。此の點ではセルロイドが理想的で、近年大變に研究せられ、進歩もしました。西洋人形は一般に優秀な原型を作り、原型通り型で出し、極く稀薄な塗料を使つて仕上げるか、乃至全然塗料を用ゐません。又原型の上に布を被せ布で表情を出すものも近年出来て、目下大變流行して居ります。

さてニューヨークの人形に就いてであります

が、抑々アメリカは世界最大の人形の消費地で、大正の始め頃獨逸より毎年二億圓に近い人形を獨逸から輸入して居りました。之は當時日米貿易の太宗たる生絲の貿易額にも匹敵するもので、獨逸に取り、如何に重要な物産であつたか、察せられませう。米國商人は年々獨逸に人形を仕入に出掛けたものであります。其の頃の

せん。一體に人形の材料としては輕くて、表情のよく出る、毀れないものがいゝのですが、西洋人形はなかく色色なものを利用して居ります。表情を出すには瀬戸物が一

人形の頭の生地は大部分瀬戸で、瀬戸——ミ申しましても日本のものではなく、焼物さいふ意味です——瀬戸でないミ本筋の人形にして通らなかつたので御座います。少くミ

も上物は全部瀬戸であつたに申して誤りません。それには何々ラインに申して色々の筋がありまして、立人形は手脚に玉が入り、顔大きく、髪はカール、キャラクター・ドルは一本のもの、脚を伸して坐るもの二種あり、髪はおか



つばさん、スタッフ・ドルは頭は同じで、胴手足はレザーで、安くて丈夫なもの、その他に種々特殊なものがありまして。總て幾許もなくかの世界大戦が勃發致しまして、

獨逸は人形の製造を中止し、従つて米獨人形貿易は杜絶しました。そこで瀬戸物の本場たる我國で西洋人形を製造し米國に輸出する氣運が醸成せられ、私は名古屋の森村組と協同して資本金貳百萬圓を以て日本玩具株式會社を創立

し、年産數百萬圓の人形を製産して米國に送りました。西洋人形製法の研究、就中眼球製法發見の苦心談は次號に申述べる事に致しませう。日米人形貿易は然し永續しませんでした。其の理由は戦後獨逸が非常なる勢を以て人形製造を再開した事、及び戦後好景氣の爲め我國の物價暴騰し爲替も従つて昂騰せるに引き換へ、獨逸はマルク相場激落して、驚くべき安價を以て製品を米國に輸出する事を得ましたので、本邦品を以ては到底競争に堪へ得なかつた故であります。

所が昨年私が米國を歴遊して一驚を喫したのは、米國自身の人形工業の發達であります。今日に於ては、獨逸より輸入せらるゝ人形は微々たるもので、數億圓に登る國

内消費を自國製品を以てまかなうのみならず、東洋及ぶ南米諸國に向つて盛に輸出してゐる有様であります。それと同時に瀬戸の頭の人形はすっかり廢つて今日では既にアナクロニズムになつて居ります。瀬戸が廢つた理由は、前

申しました通り、落して破れるのこ、重量が大で小兒の取扱に不便なのこの、二つの點に他ならぬと思はれます。今日はハルブ製、セルロイド製、ゴム製の頭が最も多く使用せられて居ります。

幼稚園新入園者を發表するので一人はせつせとその姓名をかいてゐた、ために珍らしくも幼稚園職員室の硯にはつつましい香りが紅花墨からながれてゐた。

たそがれ近き早春の日。

一まづ檢定もすんだし、とみんながほつと重荷を下ろした氣持。けれどけれど誰も胸にはほんの少しのほろ苦さが残つてゐる。それがどうにもならないし、過ぎてしまへば小さな苦にすぎないものを、心は靜かに持ちて行くべし、とは知れども。折からわが主事倉橋の君、俄に達筆が振ひたくなつたものと見えて、そこに展べられた半折一ぱいに、

はいれない子にも薰れや梅の園 園丁

御承知の方は御承知のやうに人の追従を許さぬあの大きな字が、かかれた墨いろにいと、ふさはしく、何とまあ雅

味深々たることよ、この半折は故山本森之助氏の額に隣して壁間にかゝけてあるが毫も遜色がない。この室にはいつて來た人のこれをしみんとながめない人は無いやうな有様、日一日とこれの名聲が高くなつてくるかの感がある。

一日膳眞規子さま、この室にお訪れするとき、

一へエ、これはどなたので

一十三萬圓なら即座に買手があるんですがね、十五萬圓一文もかけちや手放さないと云つて居るんですよ、

一十五萬圓でも結構ですね、一體この落款は何とかいてあります、眼が悪いもんで、

一同クス／＼、眼が人一ぱい良くてもわからないこの落款、有り合せのインキ壺の蓋に朱肉をつけてべたと押されたるものゆえ。

いづれ入札後は幼稚園の寶物庫にでも大切に保存いたすべく、おのぞみの方はおいで下さい。